

プロフェッションとは何か

ープロの統計家として自分はどう行動するかー

京都大学医学部付属病院 佐藤恵子

1. 教育プログラムの背景とねらい

「統計家の行動基準」は2013年に佐藤らにより作られ、日本計量生物学会において、学会基準として採択された。これは、統計家一人ひとりが自らの行動基準「自分は誰の何のために働くか」、「どうふるまうか」を考えて、その拠り所となるもの（プリンシプル）を身の内に持つために、「プロとしてすべきこと」の必要最低限の部分（基軸）を提示してみたものである。本ワークショップ「プロの生物統計家のための行動基準を考える教育プログラム」では、事例検討や「考えるシート」などの、頭と手を使ったワークを通じて、プロフェッショナルリズムを涵養していただくことを目的としている。そして、この教育プログラムをパッケージ化して、受講者の方々が職場に持ち帰り、同僚や新人の教育に使用していただくことも考えている。そのために、受講者にはセミナーに対する評価もお願いしている。

2. 教育プログラムの構成

このプログラムは、セミナーとセミナー受講後の小論文の宿題で構成する。セミナーは、座学での講義1・2、葛藤が存在する事例を小グループで議論するワーク1、「プロの統計家は誰の何のために働くのか」を問いかけるシート「マンダラ・チャート」を記載するワーク2を含む。セミナー終了後に、自分と社会との関係を考察し、プロフェッショナルの統計家としてどうありたいかを考えるための小論文「考えるシート」を課し、提出するように求める。

セミナーは、リーダー、ファシリテータ及びコメンテータにより構成される指導者により進行する。小グループの事例検討では4~5人の小グループにファシリテータを配備して議論を行う。

3. 概要

本ワークショップでは、まず、講義1として、プロフェッショナルの定義(A.フレックスナー, 1915)、ICH統計ガイドラインでの医学領域の統計家の定義と業務、行動基準が必要な理由を説明し、プロフェッションとは何かについて考える。続いて、ワーク1では、統計解析の実務上で科学的合理性や所属組織の利益などの間で相克がある事例を用いて、プロの統計家として自分はどう行動するかについて議論する。

Selected References

日本計量生物学会 (2013). 統計家の行動基準.

http://www.biometrics.gr.jp/news/all/standard_20150310.pdf

佐藤恵子, 岩崎学, 菅波秀規, 佐藤俊哉, 椿広計. (2014). 統計家の行動基準の策定ー背景と今後の課題. 計量生物学 35(1):37-53.

佐藤恵子, 鈴木美香, 和泉志津恵. (2015). 統計家のプロフェッショナルリズム涵養プログラムー施行と評価. 日本計量生物学会 2015 年度大会予稿集, pp. 63-68

連絡先: 佐藤 恵子 (E-mail: kesato-ktu@umin.ac.jp)